

特 集



知っ得情報  
身近な市  
市に行ってみよう

## 新装なった東久留米卸売市場は一般客大歓迎

東久留米市下里、新所沢街道沿いにある東久留米卸売市場（得得市場）が老朽化に伴い、新築され6月26日に新装オープン。運営する東久留米卸売市場協同組合が、敷地内の駐車場だった場所に約7億円をかけて新築、移転したものです。約2700平方メートルの建物内には生鮮食品、加工食品、玩具、包装用品などの30業者が営業しています。

市（場）の駅としてプロの業者だけではなく、一般消費者を積極的に取り込もうと、これまでは休日だった日曜・祝日も開場、営業時間も午後3時までで延長となりましたが、仕入れの関係で日曜が営業できない店や、営業時間も店舗によって異なるのが市場らしいところ。現在約3〜4割の一般客の売り上げを、7割にまで上げたいと組合では目標を立てています。東久留米で40年、その前

花小金井にあった時から数えると50年の歴史を持つ民営の卸売市場。昭和の風情が漂っていた旧市場も捨てがたいものがありました。新市場はイメージを一新し、明るく、空調設備も万全の買い物しやすい市場になりました。

### 品数豊富、新鮮で安い

市場に消費者が求めるものは、新鮮さ、安さだと思えますが、スーパーで扱っていない品があること、必要な時まとめ買いができるという卸売の特色にもあるでしょう。飲食関連の店が買いに来るのですから、食肉にしても焼き鳥用やモツ煮用の内臓がさまざまあるかと思うと、A5等級の和牛があったりと、何でも揃っています。豚肉が値上がりしている中で、100gあたりモモ肉130円、ひき肉が80円というのはやはり安い！



組合の常務理事も務める柴源の三柴社長(右)と高橋さん



活きのいい魚と、左は「モーカの星」(柴源)



両側に店が並ぶ明るい通路



楽しく気さくな島田玩具さん



さまざまな機関に食材提供しているさか井さん



黒毛和牛も部位いろいろ(近江フーズサービス)



豊富な豆類(かぼ久)

休業日●8月15、16、27日 9月10日  
毎月隔週の木・金・土は月例特売日  
早い店は午前6時より営業  
東久留米市下里5-12-12  
☎042(471)2231(代表)

### 生鮮以外も面白い

えてくれますよ。

味噌で食べるのが一般的。店の人皆が専門家ですから、聞くと何でも教えてくれますよ。

「モーカの星」と書かれた気仙沼産のもの。何やらグロテスク、訊ねると、これはモウカザメの心臓で珍味であるとか。スライスして刺身に、酢味噌で食べるのが一般的。店の人皆が専門家ですから、聞くと何でも教えてくれますよ。

この市場で一番広い奥の「丸北水産」に行く、次々に入ります。ラック。機敏に動く従業員の人たちの元気が掛け声。やはり市場らしい活気に満ちています。マグロなどを解体する機械も設置されています。新鮮な魚が入った発泡スチロールの箱がズラリと並んでいます。朝が早いせいか昼近くになると品薄になるようです。

一方、同じくマグロ、鮮魚を扱う「柴源」は小売り用にマグロの刺身がパック入りで販売中。この日は大トロ丼が何と800円、中トロ丼は500円で並んでいました。勝浦のキンメ、カツオ、長崎の天然カンパチなど全国の産地名が値札に記されているのが親切です。ありとあらゆる魚、貝類が揃っています。岩がき、ホヤ、白ミル、韓国からの赤貝、養生貝というのは1キロ7千円近くもします。「ギョギョー」としたのは「モーカの星」と書かれた気仙沼産のもの。何やらグロテスク、訊ねると、これはモウカザメの心臓で珍味であるとか。スライスして刺身に、酢味噌で食べるのが一般的。店の人皆が専門家ですから、聞くと何でも教えてくれますよ。

「スーパーにない対面販売で、声が飛び交い活気があるところが市場らしさですね。お客さまに安くてお得、いい情報が得られたと喜んでもらい、テーパークのように楽しんでいただければ」とおでん材料、加工品を扱う「さか井」さん。

入口にある「大東青果」は野菜、果物の種類が豊富で安い。スイカやメロンなども半端じゃない数。桃は店頭で箱売りされていました。海苔やお茶、豆類やハチミツ、佃煮、漬物、包装用品の専門店もあります。総合玩具の「島田」には夏祭りで見かける今風の光るヨーヨーや花火、スパーボールも20種くらいあり、子どもたちが喜びそう。子供会行事やお祭り用によく売れるそうです。

旧市場跡には来春ケーズデンキがオープン予定。相乗効果が期待されています。「遠方からも来ていただき、お客さんの範囲が広がりました。オープン間もないので、各店の足並み統一がまだまだです。駐輪場は増設しましたが、旧市場の工事が始まったこともあり、駐車が足りずお客さんにご迷惑をかけることもあって。夏休みは子どもさんを対象にイベントも企画しています」と新井事務局長。

## 特集



陶器店のように品数いっぱいの食器リサイクルと池田代表(左)



りさいくる市 8月3日(日)  
9時ごろ～正午 エコプラザ  
西東京(こもれびホール向い)  
(問)042-438-4043



上)可愛い仔猫の前に人だかり  
左)飼い主を待つ仔猫たち



思い出が詰まったプラレールを販売中

# モノや命の大切さも教えてくれる 西東京市の「りさいくる市」

西東京市には長年続く「りさいくる市」があります。ごみの減量と資源の再利用推進を目的に、ごみ減量推進課が主催するもので、4月から12月までの第一日曜日に、田無庁舎市民広場とエコプラザ西東京で交互開催しています。フリーマーケット出店募集が田無庁舎65店、エコプラザ43店、1区画3.5㎡、出店料無料で毎回数倍の競争率になるとか。応募資格は西東京市内在住の個人・団体(業としている人は除く)です。

田無庁舎市民広場で開催されました7月6日、梅雨の晴れ間で人出も多く、売る人、買う人、どことなくのんびりと楽しんでいるようです。品物はやはり衣類が多いのですが、「これは孫が小さい時、親戚の結婚式に着たドレスで手づくりなんです」と話す女性。商いをしていた母親が遺した帯や反物を売る女性。男の子3人を持つママさんは、子どもたちが大きくなって使わなくなった、山ほどの電車や線路のプラレールを出店。「おばあちゃんが孫にとか、大人の方が昔のものは今売っていないのと、買っていけませんよ」と汗をふき

ふき話してくれました。

入口の一角で「ごみ資源化市民会議」が主催する陶磁器食器のリサイクルは大変な賑わい。当日市民が家庭から持参した不用食器(花瓶、ガラス、土鍋、自作品は除く)をメンバーが回収分別し、きれいなものは並べて、欲しい人にとって帰ってもらうシステム。その際カンパ金が1個につき30円。「壊れたもの、残ったものは岐阜の美濃焼の産地へ送ります。その時の運賃となるのです。送った陶磁器は粉碎され、原料の陶土に混ぜられ、成型、焼成してまた食器として甦ります」と代表の池田千城さん。大皿、小皿に小鉢、茶わん、箱入りの新品まで、掘り出し物が見つかりそうです。

「西東京飼い主のいない猫を救う会」による 猫の里親探し・譲渡会も毎回開かれます。ケージに入れた生後2か月〜4か月の可愛い仔猫の前には人だかりが。市内で生まれた飼い主のいない猫に、西東京市では不妊・去勢手術費助成制度を実施。市とボランティアの連携で不幸な猫を増やさないようにしています。